

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

KENBI LETTER

ケンビレター

no. 112

2022. winter

コレクター福富太郎の眼

2022(令和4)年1月29日[土]—3月21日[月・祝]

9:00—17:00(入場は16:30まで)会期中無休

尾竹竹坡《ゆたかなる国土》(部分) 1916年 福富太郎コレクション資料室蔵

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

Exhibition Information
- 01

FUKUTOMI TARO Collection: The Passion of the Cabaret Magnate

コレクター福富太郎の眼

昭和のキャバレー王が愛した絵画

菊池容斎《塩治高貞妻出浴之図》1842年
※画像はすべて福富太郎コレクション資料室蔵

昭和のキャバレー王、福富太郎(ふくとみ・たろう／1931–2018)氏が蒐集した稀代のコレクションが、高知で一堂に会します。福富太郎氏は銀座をはじめ全国44店舗に展開したキャバレー「ハリウッド」の経営者として著名な人物。テレビのコメンテーターとしても活躍したので、ご存知の方も多いでしょう。福富氏は日本の「戦後最高」と評されるほどの大美術コレクターでもありました。「福富太郎コレクション」には日本画、洋画の両ジャンルにまたがる美人画があることは有名で、高知県でも30年以上前、かつての郷土文化会館において「近代の美人画名作展 福富コレクション」(1987年)が開催されています。しかし、福富コレクションの魅力は美人画だけではありません。戦前を中心とした風俗画、風景画、戦争画など、近代日本美術史を先駆的に切り開いたちょっと通好みなラインナップを楽しめるのも本コレクションの醍醐味。今回の展覧会ではこれまで包括的には紹介されなかった福富コレクションの全貌を一挙大公開します。たとえば、菊池容斎《塩治高貞妻出浴之図》は、近代歴史画の基礎を築いた容斎の『前賢故実』の図像を本画に仕上げたもの。のちに美か猥褻かで物議を醸すことになる、山田美妙の小説『胡蝶』のために渡辺省亭が描いた挿絵の元ネタとなった図像です。最新版の『日本美術全集』(2013年、小



川村清雄《蛟龍天に昇る》1891年頃



石川寅治《高知城を望む》1911年

学館)にも掲載され、現在知られている容斎作品の中でも最も有名な一作と言つて過言ではないでしょう。また川村清雄《蛟龍天に昇る》は、勝海舟の旧蔵品で、日本の近代洋画黎明期を飾る力作です。明暗表現がきいた迫力ある龍の描写にはフランス、イタリアで本格的に西洋絵画を学んだ日本人としては最初期の画家である川村の技量が遺憾なく発揮されています。また高知在住の鑑賞者の皆さんには懐かしい絵も里帰りします。石川寅治《高知城を望む》は、五台山上から西の方に向けて高知市街を眺める視点で描かれた風景画。青柳橋や高知城など、現在の風景と共通する景色とともに、今とは少し異なる明治末期の吸江の情景が描き留められています。本作は当館で開催した「石川寅治展」(2001年)でもお借りしたことがあり、今回は久々の里帰りです。高知観光をされる方、高知にお住まいの方はぜひ現在の情景と比べてご覧ください。以上、「福富太郎の眼」展出品から明治の黎明期の絵画や、風景画など、少し渋めのラインナップをご紹介しました。このほかに、日本の東西で活躍した日本画家たちの美人画、戦争を主題とした作品など、多彩な作品群から成る福富コレクションの粹を全6章構成でお届けします。小さな紙面では語り尽くせない、その全容を是非展示室でご確認ください。 文・中谷有里(当館学芸員)

2022(令和4)年1月29日[土]—3月21日[月・祝] 9:00–17:00(入場は16:30まで) 会期中無休

会場=高知県立美術館 2階 第2・3展示室

観覧料=一般前売960円／一般当日1,200円(960円)／大学生850円(680円)／高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金。

※前売り券販売(1月28日(金)まで)=ローソンチケット[Lコード:62879] ※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

主催=高知県立美術館、KSSさんさんテレビ 特別協力=福富太郎コレクション資料室 企画協力=アートワン

後援=高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK高知放送局、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送

Exhibition Information
- 02ARTIST FOCUS
#02

平川恒太—Cemetery 祈りのケイショウ

2022(令和4年)1月2日[日]—2月25日[金] 会期中無休



当館では1月2日から、平川恒太さんによる個展「祈りのケイショウ」展がオープンしています。戦争や原発事故といった負の歴史と対峙しながら作家活動を続ける平川さんにとって、生まれ故郷の高知県田野町は、「絵画」と出会った制作のルーツともいえる場所。担当学芸員が土地にまつわる記憶を中心にお話を伺いました。

構成・塙本麻莉(当館学芸員)

ひらかわ・こうた

1987年高知県田野町生まれ。東京藝術大学大学院絵画専攻修了。埼玉県在住。近年の主な個展に、21年の「Talk to the silence」(カスヤの森現代美術館)などがある。

●平川恒太インタビュー

「死」を意識した場所

物心がつく前に高知から埼玉に引っ越していますが、小学校時代の夏休みは毎年、田野町の祖母の家に兄弟で預けられていました。当時は子供なので海や川で遊びたかったのですが、お盆の期間は水辺での遊びが禁止されて、従姉妹とお墓の草むしりなどをしました。田野にある先祖のお墓は、砂地に赤子程度のサイズの石が並んでいる簡素な物で、もし津波が来たら全て流されて無くなってしまいます。でも、そのことを母も祖母も悲観的に捉えるのではなく、「海に還るなら…」と言っていました。そのお墓の向かいには、大きな英霊塔がありました。子供の僕はこの英霊塔をとても大きく感じ、戦争で多くの人が亡くなったことを強く意識しました。お盆や広島・長崎の平和記念式典、終戦記念日。死者を弔う夏を高知で過ごしました。だから高知は「死」を強く意識した場所でした。

絵画と出会う

田野にある福田寺は、自分にとってはじめて絵画と出会った場所といえるかもしれません。子供の時、祖母に連れられて、お寺にある『地獄絵』を見ました。悪いことをすると祖母から「絵のように針山に行かれるよ」と言われました。とても怖かった思い出です。先日、その絵を見にお寺を訪ねたのですが、描かれた鬼の目の箇所に穴が開けられている。住職さんが、子供が「(怖いけど)これに負けないぞ!」みたいな感じでやっっちゃうんだと話してくれました。今は劣化で褪せているところもありますが、そうやって子供が張り合ってしまうくらい、エネルギーのある作品でした。幼少時の僕が特に衝撃を受けたのがその地獄絵と、丸木美術館の『原爆の図』です。だから自分の中では、絵画は「美しいもの」というより「残して伝えるもの」だというイメージがあります。

展覧会に訪れる人へのメッセージ

僕の作品を見ても、分からることは多いと思います。もちろん、僕は何かを伝えたいと思って制作していますが、(鑑賞とは)感覚的に腑に落ちる、感じるものだと思う。だから、究極的には分からず、理解できないと思うんです。分からぬものを、分からぬものとして見て欲しいですね。今は分からなくてもいつか分かるようになるかもしれないし、「あれは何だったんだろう?」というように、何らかの引っ掛かりが残ってくれたら嬉しいです。その引っ掛かりが、人それぞれの答えを導き出すためのキーになるのではないかと思います。「なんだろう」というのは、アートと関わるために本来的な感覚なんじゃないかな。

展覧会報告 ●11月3日(水・祝)

奥谷博展開展記念講演会開催



開館記念日である11月3日、奥谷博展が開幕し、奥谷氏による記念講演会を開催しました。宿毛にいた幼少期、高校時代の話から在外研修員としてフランスに滞在した話など、あつという間の1時間でした。



カスヤの森現代美術館の展示風景

Photo: 鮎

MUSEUM HALL INFO

美術館ホール 報告

声明の会・千年の聲 聲明コンサート「祈りの聲」 ◎2021年11月3日(水・祝) 18:00 美術館ホール

関連企画 「はじめての聲明講座」 ◎2021年10月24日(日) 15:00 美術館ホール

10月24日、聲明コンサートの開催に先立ち、声明の会・千年の聲の僧侶3名と作曲家の宮内康乃氏をゲストに迎えて事前講座を開講しました。第一部「はじめての聲明」では、新井弘順師が聲明の歴史と発展を解説しながら、天台聲明の末廣正栄師、真言聲明の戸部憲海師のお二人が様々な古典聲明曲の一節を詠唱しました。

梵讃(サンスクリット語の聲明曲)、漢讃(中国語の曲)、和讃(日本語の曲)では言語によって曲の印象が異なること、同じ曲でも天台聲明と真言聲明では宗派によって唱え方が異なり、天台聲明は柔らかな、真言聲明は力強い印象を与えることなど、新井師のわかりやすい解説と末廣師、戸部師の実演で講座は進んでいきました。一部の最後は、古典の代表曲「四智梵語」を天台聲明、真言聲明両派の唱え方で詠唱する「唱えてみましょう」のミニコーナーを行いました。感染拡大防止のためマスクを付けたまでの詠唱でしたが、多くのお客様が体験してくださいました。第二部「新作聲明《海霧讃歎》《海霧廻向》の魅力」では、宮内氏から、今回上演する2曲の新作聲明曲を作曲した経緯を伺いました。東日本大震災の津波で亡くなられた佐藤淳子さんの短歌と偶然出会い、新作聲明曲の委嘱依頼を受けた時にこの短歌をもとに『海霧讃歎』を作曲したこと。そして震災から10年を迎えた今年、佐藤淳子さんの息子、佐藤慧さんが作った淳子さんの短歌への「返歌」をもとに『海霧廻向』を作曲したことなどを伺い、末廣師、戸部師による『海霧讃歎』の一節の詠唱も行いました。

11月3日の聲明コンサート本番では、開演前に宮内氏と演出家・田村博巳氏によるプレトークを行い、お二人から、古典と新作を



関連企画「はじめての聲明講座」



聲明コンサート「祈りの聲」

撮影:鈴井泰輔

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

〒781-8123 高知市高須353-2 Tel.088-866-8000 Fax.088-866-8008 <https://moak.jp/>
発行:高知県立美術館 発行日:2022(令和4)年1月10日 デザイン:FULL DESIGN

想い出の企画 館長寄稿

日韓英共同制作
「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」①

2020年7月、コロナの影響で延期になっていた「生誕100年記念 異端の天才 キム・ギヨン監督特集」が当館で開催された。衝撃的な描写とストーリーにより韓国映画界の怪物と評される監督の上映可能な12作品を上映するという企画だった。当館では、国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)の協力により、1998年に3作品、2003年に2作品を上映して以来、「虫女」「火女」など他作品の上映を模索してきた。大きく進展したのは、日韓英共同制作「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」公演の韓国側メンバー、アリッサ・キム氏との出会いだった。キム・ギヨン監督は凄い監督だと話した私に、韓国フィルムカウンシル発行のキム・ギヨン叢書(ハングル/英語版)をプレゼントしてくれたのだ。作品リストや解説は元より製作会社などのデータも掲載されており、それが念願の国内で過去最大規模の特集上映が実現できた一因だった。

さて、本題の「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」は、2013年にトリスタン・シャープ率いるイギリスのパフォーマンスカンパニー「ドリームシンクスピーカー」、金沢21世紀美術館、光州のアジアン・カルチャー・コンプレックス、韓国のプロダクション「アジアナウ」、当館が共同制作し上演した過去最大の予算規模の舞台公演である。私が初めて見た「ドリームシンクスピーカー」の作品は、2008年にアデレード芸術祭で上演された作品「DON'T LOOK BACK」だった。ビルの数階分を使った初めて見る大規模な体験型の公演で、部屋を移動するたびに不思議な場面が展開される幻想的な公演だった。制作者に尋ねると出演者は現地の役者や演奏家で、約1か月で作品を作ったという。その時点では当館での上演は規模的に無理だとあきらめていたが、本公演を金沢21世紀美術館のチーフコーディネーター近藤恭代氏(当時)、アジアナウのプロデューサー チェ・ソッキュウ氏(当時)も見ていたことが共同制作につながった。まず、当時当館の舞台芸術を担当していた職員がソウル芸術見本市に招かれた際、チェ・ソッキュウ氏が「ドリームシンクスピーカー」の新作を共同制作する団体を探しているとの情報を得、その後、筆者、近藤氏、チェ・ソッキュウ氏がモントリオール芸術見本市(CINARS)において面談した際に、新作の共同制作に動く方向がまとまった。約2年間の準備期間の間、ソウル、光州、ロンドン、金沢、高知で入念なミーティングを重ねた。規模が膨れ上がり、予算オーバーの懸念があつたが、テーマを1980年に韓国で起きた光州事件とし、経費の半分を「アジアナウ」が負担することで実現の目途がついた。(つづく)



高知での打ち合わせ時の食事会にて。前列左から二人目がアリッサ・キム氏。中央がチエ・ソッキュウ氏。後列左端がトリスタン・シャープ氏。



「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」の一場面(夜の美術館中庭)

[編集後記] 「福富太郎の眼」展にはさまざまな着物姿の女性も登場します。最近着物に関心があるので、描かれた着物や帯の柄、色の組み合わせを見るのも楽しいです。
(編集担当・柳澤宏美)